国立大学法人宮城教育大学学長の業務執行状況の確認について

令和6年3月14日
国立大学法人宮城教育大学学長選考・監察会議

国立大学法人宮城教育大学学長選考・監察会議は、村松隆学長の業務執行状況について確認を行った結果、下記の結論に達した。

記

令和5年度は、第4期中期計画の2年目として、また学長としての任期が満了となる年度として学内の諸課題の総括に積極的に取り組んでおり、全体として村松隆学長の業務執行状況は適正であると認められる。

（以下、確認した事項及び概略）

・昨年度までに行われた教育学部と教職大学院（教育学研究科専門職学位課程）の改組により、教育体制を一新するとともに、生涯にわたり学び続ける優れた資質・能力を持った人材を養成するための体制を引き続き整備した。

・体系的かつ系統的な構造をもった教育プログラムの編成と取組みが行われた結果、学生の修得度の向上に繋がり、これらの成果の一つとして、教育学部卒業者の教員就職率が本学に記録が残る範囲で最高値となった点は高く評価できる。

・国立大学運営費交付金の「成果を中心とした実績状況に基づく配分」においても、これまでに取り組んできた成果が表れており、新規採用者に占める若手研究者比率（27大学中1位（前年度5位））、常勤教員当たり受託・共同研究受入額及び受入額の伸び率（何れも27大学中1位（前年度22位及び25位））、会計マネジメント等改革状況（27大学中2位（前年度17位））など、様々な項目で順位を上げており、その結果、本制度が令和元年度に開始されてからの6年間で初めて配分基礎額を上回るものとなった点は高く評価できる。

・宮教大イノベーションコモンズ（宮教大共創拠点）構想及び「東北の教育大学」実現に向けた改革と歩調をあわせた施設環境整備として、本年度は、技術棟・音楽棟・美術棟の改修が無事に終わり、陸上競技場の改修もほぼ完了している。現在、表現活動実習棟の改修に着手しており、更なる教育研究環境の改善に繋がるものと期待される。また、新学生寮（青葉こもれび寮）が完成し、令和6年度受け入れが開始されているなど、大学の基盤となる施設の改善を継続的に実施している点は高く評価できる。

・附属学校園の改革については、引き続き校園長職を公募や教育委員会からの人事交流によって充てており、新たな視点・考え方での学校運営に着手している。本年度は、附属小学校が「小学校情報科の構築」として文部科学省研究開発学校指定を受けるなど、優れた成果を上げている。

・地域・社会との連携や貢献に関する事項としては、教員免許状更新講習が廃止になったことに伴う本学独自の新たな研修制度として「公開教員研修」を実施しており、試行的に実施した令和4年度の結果を踏まえて、本年度以降の実施方針を見直し、東北地方各地域から受講できる研修への検討を進めるなど、新たな教師の学びの姿の実現に向けた場を提供している。また、東北地方各地域での新たな教員養成体制の構築について、東北創成国立大学アライアンス教員養成連絡協議会（本学主催）における議論を進め、中学校技術・家庭等の教員の円滑な養成・確保及び研修に係る連絡会を令和6年2月に設置したことは、今後の各地域での関係教員の円滑な確保及び現職教員に対する研修機会の十分な確保等に向けて、賛同する大学及び教育委員会が連絡調整、協議等を行う場として重要であり、高く評価できる。

以　上